

～尿検査（尿定性検査）について～

尿検査は尿の中のいろいろな成分を調べることで体の状態を知ることができる重要な検査です。痛みが少なく早く検査結果が出ることで、患者さんの負担が少ない検査と言えるでしょう。

今回の『けんさの豆知識』は、尿検査の中で代表的な尿定性検査（尿試験紙法）について紹介したいと思います。



尿定性検査（尿試験紙法）とは

現在、尿定性検査と言えば尿試験紙法が一般的です。

尿試験紙法は、尿と試験紙を反応させ試験紙の色の変化を見ることで尿の中の成分がどのくらい出ているか判定します。〈写真1〉

判定法には、尿自動分析装置で判定する方法と、直接目で見て判定する方法があります。

当院では尿自動分析装置を使用し「ブドウ糖」「蛋白質」「ビリルビン」「ウロビリノーゲン」「pH」「潜血」「ケトン体」「亜硝酸塩」「白血球」「比重」の10項目を測定しています。

各項目の当院の基準値と増加で考えられる疾患をまとめたものが表1です。

表1 〈各項目の当院の基準値と増加で考えられる疾患〉

測定項目	当院の基準値	増加で考えられる疾患
ブドウ糖	(-)	糖尿病、甲状腺機能亢進症 など
蛋白質	(-)	糸球体腎炎、ネフローゼ症候群 など
ビリルビン	(-)	肝炎、胆道閉塞、結石 など
ウロビリノーゲン	NORMAL	肝炎、肝硬変、溶血性貧血 など
pH	5.0～7.5	酸性尿：発熱 など アルカリ性尿：尿路感染症 など
潜血	(-)	膀胱炎、糸球体腎炎、尿管結石、膀胱癌などの悪性腫瘍 など
ケトン体	(-)～(±)	糖尿病、糖原病、下痢、嘔吐 など
亜硝酸塩	(-)	尿路感染症
白血球	(-)	尿路感染症、腎盂腎炎、間質性腎炎 など
比重	1.005～ 1.030	低いとき：尿崩症、急性腎不全 など 高いとき：糖尿病、脱水症、ネフローゼ症候群 など

尿は、健康状態や生活環境で日々変化します。1回の尿定性検査の結果だけを見てすぐに病気に結び付けるのではなく、再検査の結果や血液検査の結果も一緒に見ることで体の状態を詳しく知ることができ、病気の予防につながります。